JAはだの

発行
秦野市
農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711㈹
発行責任者　宮永　均
印刷所　㈱JA情報サービス

カーネーションをかわいくアレンジ

シャッターチャンス

女性部東支部は16日、東支所で「アレンジフラワー教室」を開いた。部員16人が、講師を務める櫛田真弓支部長から、カーネーションを使ったアレンジメントの作り方を習った。

材料のカーネーションは、全て櫛田支部長が栽培したもの。ピンクや赤、黄色など、色とりどりの花をそろえた。

参加した部員は、花を切る長さや差し込む角度を確認しながら、アレンジフラワーを作った。かごを土台にしてリボンを使い、花束のように飾り付ける「スプレーシェイプ」に仕上げた。

カーネーションで作ったアレンジフラワー

組合員訪問日 5月の日程変更

27日の地区は28日に

5月27日（木）に第58回通常総代会を開催するため、5月の組合員訪問日は、26日（水）、28日（金）の2日間で実施します。毎月27日に職員が訪問している地区は、5月だけは28日に訪問しますので、ご理解をお願いします。

急ぎのご用件がある方は、各支所・支店までご連絡ください。

今月の特集 4～5面

食用八重桜 特産の伝統大切に

秦野市は、食用八重桜の生産量全国トップクラスを誇る。組合員は、秦野の春の風物詩となっている八重桜の伝統を守り続けている。

地元農業の魅力知って

「湘南ゴールド」今年も収穫体験

支所運営委が企画

本町支所運営委員会は3日、地域の組合員を対象に「湘南ゴールド」の収穫体験を曽屋の畑で行った。畑の見学や収穫作業を通して、農業に理解を深めてもらうことが目的。参加した組合員やその家族ら約30人に、収穫方法などを教えながら、地元の農業の魅力を伝えた。

体験は、委員の発案で昨年初めて企画。好評を受け、今年も実施した。地元農家の古藤登さんが昨年に引き続き協力し、栽培管理を進めてきた。

委員は参加者に収穫方法を指導した他、果樹栽培には結実が多い年と少ない年があることなどを伝えた。枝や葉に覆われている所をかき分けて実を探したり、取り残しがある実を収穫したりして、参加者をサポートした。

参加者の一人は「コロナ禍でなかなか遠出ができない中、自宅の近くで収穫体験ができるのはありがたい」と感想を話した。

田中和幸委員長は「多くの人に収穫の楽しさを知ってもらい、農業に理解を深めるきっかけになれば」と笑顔で話した。

収穫した「湘南ゴールド」を手渡す委員㊨

苗や資材はJAで

おうち時間に家庭菜園を

じばさんずは現在、夏野菜の苗を販売しています。トマト、キュウリ、ナスなど、市内の生産者が丹精して育てた良質な苗を豊富に取りそろえています。

肥料や支柱など、家庭菜園にも役立つ資材は、JAグリーンはだので取り扱っています。栽培に関する相談にも対応しています。

「おうち時間」に、家庭菜園を楽しんでみてください。

長寿を祝い健康願う

100歳以上の組合員を訪問

JAはだのは14日、長寿の組合員を祝う「いきいきライフ支援事業」で、100歳以上の組合員に記念品を贈った。「JA健康寿命100歳プロジェクト」の一環で、喜寿、米寿、白寿、100歳以上の組合員を祝っている。

宮永均組合長が、組合員4人の家を訪問。渋沢上の野田将次郎さん宅では「これからも元気にお過ごしください」と声を掛けながら、秦野産のバラのアレンジメントと記念品を手渡した。

野田さんは「祝ってもらえて、とてもうれしく思う。今後も健康に気を付けて過ごしていきたい」と笑顔で話した。（7面に関連記事）

バラのアレンジメントを贈呈

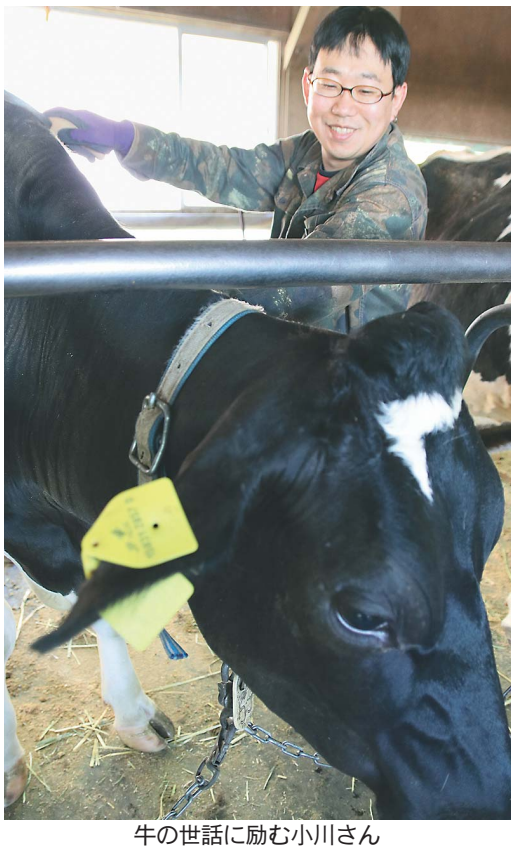
文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

牧場を引き継ぎ酪農経営スタート

小川翔吾さん(32)

今泉で、若手が新たに酪農経営の道を歩み始めた。小林哲夫さんの牧場を引き継ぎ、期待を背負って新規就農したのは、伊勢原市桜台の小川翔吾さん(32)。これまで着実に身に付けてきた酪農のスキルを発揮させながら、秦野市内で最年少の酪農経営者として、スタートを切った。

”牛が好き”長年の夢を実現


牛の世話に励む小川さん

小川さんは幼い頃から動物が好きで、観光牧場で乳搾りを体験したことをきっかけに、牛に興味を持つようになった。将来は牧場で働きたいという夢を持ち続け、農業高校で畜産について学習。酪農を専攻するため北海道の大学に進学し、さらに知識を身に付けるとともに、1年におよぶ実習を通して経験を積んだ。卒業後は、県畜産技術センターで6年間勤務した後、東京都や県内の牧場で従業員として働き、技術を磨いてきた。

自身の牧場を持ちたいと考えていたところ、小林さんが後継者を探していることを知り、引き継ぐために昨年10月から働き始めた。4月からは、1人で牧場の経営をスタート。飼育するホルスタイン種30頭から1日約80リットルの牛乳を搾っている。

「昔から牛が好き。牛は言葉が話せないので、よく観察してそれぞれの個体に合った世話をするのが大切」と笑顔の小川さん。牛の体調のわずかな変化やストレスの状態を見逃さないように心掛けている。

小川さんは「経営は初めてのことなので不安もあるが、早く軌道に乗せて、70代くらいまで続けていきたい。研修生の受け入れなど、酪農の後継者育成にも力を注いでいければ」と熱意を見せる。

市内最年少「早く軌道に」と意欲

パルシステムで秦野産販売

㈱大地のしょうゆが人気

パルシステム組合員に販売した「津久井在来大豆しょうゆ」

JAはだのは、事業連携協定を結ぶ生活協同組合パルシステム神奈川と協力して、秦野産の加工品を多くの消費者に届けている。パルシステムの宅配事業で「津久井在来大豆しょうゆ」を販売。協同組合間の連携をより強めている。

JAとパルシステムは、幅広い分野での連携に向けて、5つのプロジェクトチームを設置している。その中の「農産物販売」のチームが、販売に向けて昨年8月ごろから製造所を訪問したり、生産者と納品スケジュールを調整したりして準備を進めてきた。2021年3月1回のパルシステム組合員用の注文カタログにしょうゆを掲載したところ、468点もの購入申し込みがあった。

しょうゆは、市内の農業生産法人㈱大地が製造しているもの。原料には自家生産の大豆「津久井在来」を使用している。じばさんずなどでも販売し、来店者から人気を集めている一品だ。

災害復旧支援に感謝

ディと市に自家製茶贈る

菩提で高梨茶園を営む高梨孝さん、晃さん親子は7日、JA県厚生連高齢者福祉施設「JAデイサービスセンターはだの」と秦野市役所を訪れ、緑茶とほうじ茶合計36袋を贈った。同園の災害復旧をJAや市がサポートしたことに対して、感謝を伝えようと実施。高梨さん親子が、甲斐さとみ所長と高橋昌和市長に茶を手渡した。

甲斐所長(中央)に茶を贈る高梨さん親子

同園では2019年10月の台風で、大規模な土砂崩れが発生。地域の消防団や自治会が復旧を支援した他、北支所運営委員会が茶の苗木の植え付けを手伝った。JAの地域農業振興基金積立規程と市の農地災害復旧工事補助金制度に基づいて、JAと市が復旧費用の一部を助成するなど、地域一体となって復旧を後押しした。

孝さんは「今回の復旧作業では、たくさんの人にお世話になった。今後も良質な茶を生産することで地域に恩返ししていきたい」と感謝を述べた。

接近!おじゃします (384)

孫と一緒に楽しみながら

鶴巻南の芦川(あしかわ) 伸一(しんいち)さん(69)

鶴巻南の芦川伸一さんは、幼い頃から農業に励む両親の姿を見て、田んぼや畑を手伝っていた。会社員として就職した後も、休日は農作業に汗を流していた。60歳で定年退職した後は、両親から学んだ技術を生かしながら、妻の洋子さんと二人三脚で良質な農産物を生産している。

現在は、田んぼと畑合計150アールで、米やサツマイモ、サヤエンドウなど約10品目を栽培。落花生も生産し、JAはだのが加工する冷凍ゆで落花生「うでピー」の原料として出荷している。1988年の「うでピー」発売当初から出荷していた父から受け継ぎ、親子2代で、秦野の名産品を支えている。

丹精して育てた野菜は、鶴巻支店で開く「鶴巻ふれあいマルシェ」と鶴巻温泉駅前の売店の他、自宅前でも販売している。根強いファンも多く「先日”いつも新鮮な野菜をありがとう”と書かれた手紙をもらって、とてもうれしかった。頑張ろうという気持ちになる」と笑顔を見せる。

芦川さんの日々の楽しみは、近くに住んでいる孫たちと一緒に畑に出ること。「中学1年生の孫は、小さい頃から畑が大好き。5歳の時には地下足袋を買ってあげた」と話す。学校が休みの日には一緒に農作業をしながら、絆を深めている。1歳の孫も、畑で遊ぶことが好きだという。

今後は「かわいい孫たちの成長を楽しみに、健康に気を付けながら長く農業を続けていきたい」と話した。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに??」

JAが取り組む「SDGs」

前回はSDGsの概要について教えてもらったけど、今回はJAが取り組んでいるSDGsに関わる活動について詳しく知りたいな。

分かったわ。農業に関しては、農作物の栽培支援はもちろん、農地を保全するための取り組みが、SDGsの目標の12番「つくる責任つかう責任」や目標の15番「陸の豊かさも守ろう」につながっているの。その他にも、子どもたちへの食農教育をはじめ、地産地消や国産の消費を促す「みんなのよい食プロジェクト」など、JAの事業や活動はSDGsの目標につながるものがたくさんあるのよ。詳しくはインターネットで「SDGsとJAグループ」と検索してみてね。

そうなんだ。JAは、日々のさまざまな活動を通じてSDGsに取り組んでいるんだね。詳しく調べてみるよ。教えてくれてありがとう、やえのちゃん。

食用八重桜

特産品の伝統大切に

秦野の春の風物詩

秦野市は、食用八重桜の生産量全国トップクラスを誇る。その歴史は古く、江戸時代後期から続くと言われている。市内の組合員はさまざまな思いを胸に、秦野の春の風物詩となっている八重桜の伝統を守り続けている。

八重桜を摘み取る小野さん

高所も手際良く 短い適期逃さず

摘み取り急ピッチ

食用八重桜の摘み取りが、4月上旬にピークを迎えた。八重桜を収穫する「摘み手」の一人、千村の小野孝允さんは、頭高山で色鮮やかな八重桜の摘み取り作業に汗を流した。

小野さんは、7人の農家と手分けして八重桜「関山」を収穫。八重桜の木は高さ8㍍ほどのはしごを立て掛けて登り、手が届かない場所は、先端を曲げた針金を使って枝を引き寄せながら、手際良く摘み取った。収穫した八重桜は、小田原市の漬物業者に出荷。塩漬けに加工され、祝いの席の桜湯などに使われる。

八重桜は、木全体の花が八部咲きになる頃が収穫のタイミング。全体が満開になると一部の花が散り始め、商品価値が下がってしまうため、わずかな収穫適期を逃すまいと、急ピッチで作業を進めた。

小野さんは「今後も体力が続く限り、摘み取りに励む。地域の人たちに八重桜の伝統を知ってもらうため、感染症が落ち着いたら、以前やっていた園児向けの摘み取り体験を再開させたい」と意気込む。

期待の若手活躍

加工技術を受け継ぐ

千村若竹会加工部の食用八重桜の塩漬け「丹沢のさくら漬」作りに、新たに若手が加わった。メンバーの減少と高齢化が課題となっていた同部に、新たな希望の光が差し込んだ。

同部は、1985年に結成。35年以上にわたり、地元農家が摘んだ桜を使って塩漬けを作り続けている。95年には40軒ほどの農家で活気づいていたが、現在は3人に減少。メンバーの年齢も70～80代となり、後継者の確保が必要となっていた。

新しく作業に加わったのは、渋沢の加藤菊恵さん。峠地区で漬物の加工グループに所属している加藤さんは、八重桜の加工にも興味を持っていた。その話を聞いたJAはだのの担当者が、同部に加藤さんを紹介した。加藤さんは昨年10月ごろから、桜の袋詰めやじばさんずなどへの出荷作業を積極的に手伝っている。

6～8日の3日間には、地元農家らが収穫した合計100㌔の八重桜を加工。加藤さんも同部のメンバーと一緒に、初めての選別や漬け込みの作業に汗を流した。

「丹沢のさくら漬」は県店頭に並ぶ予定だ。

八重桜の選別作業に励む加藤さん㊨と岩佐代表

収穫楽な低樹高

ジョイント栽培さらに

市内で、農業を通じて地域おこしに取り組む任意団体「フィールド・フォー・シチズン」が、食用八重桜の「かながわブランド」に登録されている一品。軸ごと収穫した八重桜の花を、白梅酢と塩に40日ほど漬けて作る。漬け込みと漬け替えの時によくもみ込むことで、鮮やかなピンクの桜漬けに仕上げている。

加藤さんは「桜の花を見るだけではなく食べるという独自の伝統を絶やしてはいけないと思い、参加を決意した。しっかりと技術を身に付け、おいしい八重桜の味を多くの人に知ってもらいたい」と熱意を燃やす。

岩佐スエ子代表は「漬け込み作業は体力が必要な重労働なので、参加してもらえて助かっている。大切にしてきた特産品を地域で守り続けていきたい」と話した。

「丹沢のさくら漬」は、同店や特産センター渋沢店、秦野市観光協会で販売する。1袋50㌘入り300円（税込み）。今年漬け込んだものは、6月ごろから店頭に並ぶ予定だ。

市内で、農業を通じて地域おこしに取り組む任意団体「フィールド・フォー・シチズン」が、食用八重桜樹体ジョイント仕立て」の技術を活用した、樹高を低くして子どもでも簡単に収穫を体験できる。遊休農地となっていた山あいの斜面を利用し、美しい景観づくりにもつなげる考えだ。

ジョイント仕立ては、木と木を1本につなぐことで早期成園化と低樹高化を実現する技術。10㍍以上になる八重桜の樹高を2㍍程度に抑えられるため、収穫作業の省力化になるとともに、幅広い年齢層を対象にした収穫体験にもぴったりだ。多くの人に八重桜の魅力を知ってもらうと、同団体が全国で初めて取り入れた。

同団体は、代表を務める渋沢の小池勉さんが中心となり、柳川で遊休農地解消や地域活性化に取り組んでいる。地元農家の和田稔さんの協力で、2016年から米やサツマイモなどを栽培している。20年からは、同市の特産である食用八重桜を組み入れ「関山」の苗木35本を定植。接ぎ木や誘引、剪定（せんてい）を行い、順調にジョイント仕立ての栽培を進めてきた。

今年1月には規模を大きく広げ、300本の苗木を植えた。同時期に地区内の農家も苗木を30本植えてジョイント仕立ての栽培をスタート。同団体の活動が呼び水となり、広がりを見せている。

3月下旬から4月上旬の4日間には、接ぎ木の作業に励んだ。地面から70㌢の位置で苗木の角度を90度には、木と木を曲げ、木の皮を削ってあらわになった組織を隣の木の組織とぴったり重ねて、テープで固定。300本の木を一つ一つ丁寧につないだ。今後は枝の誘引や剪定などの管理を進め、3年ほどで収穫できるようになる見込みだ。

小池代表は「桜の本数をもっと増やして里山に美しい景観を形成し、いずれはイベントを開いて柳川に人が集まるようにしたい。収穫した八重桜の加工や販売にも携わり、地域に良い循環を生み出していければ」と情熱を燃やす。

八重桜の接ぎ木作業に励む小池代表

品種は濃いピンクの「関山」

市内で収穫されている八重桜の多くは「関山（かんざん）」という品種。濃いピンクの花を咲かせる八重桜の代表的な品種で、公園や道路沿いなどにも広く植えられている。花は大輪で、30～50枚の花びらを付けている。

千村では、地域で祭りの費用を捻出するため、八重桜の収穫・加工を始めたと言われている。戦後、春の換金作物として植樹され、地域の特産物として定着した。

市内で多く栽培される「関山」

利用者をサポート

南支所運営委

体験型農園 盛り上げ

委員㊥が支柱の立て方を指導

南支所運営委員会は18日、平沢の体験型農園「名水湧く湧く（わくわく）農園」で、支柱立てや種まきの作業をサポートした。園主の和田礼子さんの支援につなげようと、委員4人が利用者を手伝った。

和田さんは事前に用意した作付け計画に沿って、植える品目や栽培方法を説明した。利用者は、5月に夏野菜の苗を植えるための準備として、畑に支柱を立てた他、インゲンやトウモロコシの種をまいた。委員は利用者と共に作業を進めながら、交流を深めた。

和田さんは「今年は区画数を増やしたので、地域の方々に利用者の作業をサポートしてもらえてありがたい」と笑顔を見せた。

清水努委員長は「農業体験は自然と触れ合うことができるので、利用者にとってコロナ禍でのよい気分転換になる。支所管内で観光農園などを営む組合員の活動を継続的に支援していきたい」と意気込む。

協力員㊨に任命証を授与

鳥獣被害対策 協力員に任命

JAはだのは3月19日、本所で鳥獣被害対策協力員の任命式を開いた。県わな猟免許を取得した組合員ら14人を新たに任命した。

JAは2011年に、協力員で構成する鳥獣被害対策協力会を設立。現在は88人が所属し、地域ぐるみで鳥獣対策に取り組んでいる。

任命式では、小島敏雄常務が協力員に任命証を授与。増え続ける鳥獣被害に対して、協力員としての活躍に期待を寄せ、エールを送った。

協力員は今後、くくりわなを活用した野生動物の捕獲をはじめ、捕獲おりの見回りや点検、えさの設置の他、農家らへの捕獲指導などの役割を担っていく。

日頃の支援に感謝

安全・安心な秦野産80㌔㌘贈る

市長や施設に豚肉

鶴巻で㈲門倉種豚場を経営する門倉敏夫さんは3月24日、秦野市と市内4カ所の福祉施設に豚肉を贈った。安全・安心な秦野産豚肉のPRと、地域福祉への貢献が目的。合計80㌔㌘を用意し、日頃の支援に感謝を伝えた。

贈呈は1996年から実施しているが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた。秦野市役所を訪れた門倉さんは、高橋昌和市長に豚肉を手渡し、福祉施設への贈呈を始めたきっかけなどを話した他、近況を報告した。

高橋市長は「大変な状況であると思うが、引き続き安全・安心な秦野産豚肉の供給をお願いしたい」と話した。

門倉さんは「贈呈も今回で25回目を迎えた。今後も地域の協力に感謝しながら、安全でおいしい豚肉を提供していきたい」と意気込みを話した。

高橋市長㊨に豚肉を贈呈する門倉さん

小麦畑を巡回し 適切な管理確認

秦野出荷組合

秦野小麦出荷組合は3月30日、組合員の畑9カ所を巡回した。組合員やJA、県農業技術センターの職員合わせて9人が参加。小麦の生育状態を詳しく調べ、今年の気候に合わせた栽培管理方法を確認した。

センター職員らは、小麦の草丈や葉の中で生育している穂の長さを計測した。暖冬の影響で例年よりも生育が早いため、追肥や病害防除のタイミングを前倒しにすることを指導。TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）が昨年作った「ゆめかおり」の栽培暦を使いながら、追肥量の目安なども伝えた。

小泉貴寛組合長は「今後も適切な管理を進め、組合全体で品質の良い小麦を生産していく」と話した。

小麦の生育を確認する組合員㊨ら

TACと同行 農家訪問体験

新採用職員

JAはだのの2021年度新採用職員7人は3月24日、研修の一環でTAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）と一緒に市内の農家を訪問した。組合員との対話を通じて地域の農業への理解を深め、JA職員としての心構えを学ぶことが目的。

新採用職員の守屋寿紀さんは、TACと一緒に市内のイチゴ農家6軒を訪問。JAやさい部会いちご部の飯田進部長のハウスでは、良質なイチゴの生産に向けた摘蕾（てきらい）、摘果や枯れ葉を取り除く作業などの説明を受け、農家の仕事や苦労などを学んだ。

栽培管理の説明を受ける新採用職員㊨とTAC㊧

若い新リーダー選出

青年部は草山委員長

コロナ対策 書面で総会

青年部は9日、第58回通常総会を開いた。新型コロナウイルス感染症対策のため、書面での実施とし、部員34人が議決権行使書を提出。役員改選では新委員長に、鉢花を栽培する本町の草山邦彦さんを選んだ。

草山委員長は「今年度の活動は、屋外で密を避けてできるものを中心に進めていく。近頃はハイキングが人気なので、市内のハイキングコースに部員が生産した花を植えるなど、新しい切り口で部の活動をPRしていきたい」と意気込みを語った。

草山委員長

秦友会は高梨会長

秦野市農業後継者クラブ「秦友会」は7日、第57回通常総会を開いた。11人が議決権行使書を提出し、上程された4議案を可決した。

新会長には、菩提の高梨茶園で茶を生産する高梨晃さんが就任した。

高梨さんは「最近新たに加入した会員もいるので、今年は会員同士の交流を大切に、互いへの理解を深める年にしたい。感染症対策をしながら市民に農業をPRする方法も模索していく」と力を込めた。

伊藤前会長㊨から高梨新会長にバトンタッチ

発見 頑張り屋さん No.453

浅く広くがモットー

春日町在住の小宮幸雄さんは、八沢で生まれ育ち、大学を卒業後、食品会社に就職した。多数の部署で活躍してきたが、55歳の時に「自分ができることは全て成し遂げた」と退職を決心。その後は、前から興味があった埋蔵文化財の発掘に関わる仕事や調査に携ってきた。特に縄文時代に興味があり、近隣の畑で掘り出された土器を集めている。他にも木の拓本や登山、写真を撮ることなど、数多くの趣味を持つ。

春日町の―小宮（こみや）幸雄（ゆきお）さん（82）

――土器収集を始めたきっかけは？

古い時代に作られた物が好きだった母に影響を受けたことです。また、幼い頃に一時期母の実家に住んでいて、近所の道端に土器の破片などがよく落ちていたので、次第に興味を持つようになりました。

――JAとの関わりは？

野鳥や市内の風景などを撮りまとめた写真集と、季節ごとの写真を西支所に寄贈しています。昔から写真撮影が好きで、60年間続けています。

――家での趣味は？

庭先の木を剪定（せんてい）することです。一番お気に入りは、玄関近くに植えてあるマキです。近くに寄った際は、ぜひ自慢の植木を見に来てください。

――今後は？

これからも「広く浅く」をモットーに、さまざまな趣味を楽しんでいきたいです。また、最近発行した自叙伝の続編を作成できたらと思います。

果樹園のイノシシ被害軽減へ

鉄製ワイヤメッシュ設置

南矢名　事前調査踏まえ1.2キロ

南矢名上部生産組合と、はだの都市農業支援センターは3月28日、南矢名の果樹園に鉄製のワイヤメッシュを設置した。イノシシによる果樹の被害を軽減しようと、昨年から準備を進めてきたもの。組合員や同センター職員の他、県かながわ鳥獣被害対策支援センター職員ら約30人で、合計1・2キロの距離にワイヤメッシュを張った。

斜面にワイヤメッシュを設置する組合員ら

同地区では山の傾斜を利用したかんきつ栽培が盛んだが、近年イノシシによる被害が急増している。組合員らは、イノシシ対策に特化したワイヤメッシュの設置を検討。昨年8月にローラー距離計で正確な距離を測り、必要なワイヤメッシュの個数を割り出すなど、事前調査を行ってきた。

設置したワイヤメッシュは、行政の助成で支給を受けたもの。高さ1・2メートル、幅2メートルで、直径5ミリほどの強度の高い鉄線を使用している。地上から50センチ程度までは目合いが7・5センチになっていて、小さいイノシシにも対応できる点が特徴だ。

組合員らは、急斜面や起伏のある場所ではワイヤメッシュを重ねたり、角度を調整したりして、イノシシが通り抜ける隙間ができないように工夫しながら設置した。

キウイ授粉作業の目安に

独自に花粉の発芽率調査

JAはだのは、キウイフルーツや梨の花粉の発芽率を独自に調べ、果実の安定生産を後押ししている。営農販売課の園芸技術顧問らが機材を使って調査。結果を基に、授粉作業に向けて的確な指導をすることで、農家をサポートしている。

調査は、農家が各自で貯蔵していた花粉を調べて発芽率を算出し、人工授粉で使用可能か確認する。温度や湿度などの保存環境によって花粉の状態が変化してしまうことから、収量確保や良質な果実生産のための重要な調査の一つだ。

5～7日には、果樹部会キウイフルーツ部の部員9人が持ち込んだ花粉を調査した。純水と粉末寒天、ショ糖を混ぜて固めた寒天培地を用意。その上に少量の花粉をまき、25度に設定した定温器で培養した。その後、顕微鏡で花粉管の伸長を調べ、それぞれの発芽率を算出した。

キウイフルーツ花粉の発芽率を調査

トマト・キュウリの良質生産へ情報交換

施設部がハウスを巡回

やさい部会施設部は3月29日、部員のハウス7カ所を巡回し、現地検討会と立毛共進会を開いた。部員の他、県農業技術センター職員ら合計7人が参加した。

参加者は、生育状態や病害虫の発生状況などを確認し、部員同士で情報を交換した。ハウスの設備や温度管理などについても意見を交わした。

同部は、部員17人がハウス合計231アールで野菜を生産し、年間を通して良質なトマトとキュウリを出荷している。部員のトマトを使ったストレートジュースもJAと連携して販売し、消費者から人気を集めている。

須藤智治部長は「お互いの栽培状況を見ることは、情報共有の良い機会になっている。今後も部員同士で切磋琢磨（せっさたくま）しながら、おいしい野菜を消費者に届けたい」と話した。

トマトの生育状況を確認する部員

受賞おめでとう！

日頃の成果を発揮

やさい部会施設部は3月29日、市内圃場（ほじょう）を巡回して立毛共進会を開いた。審査の結果は次の通り。

◎トマトの部▽優秀賞＝田中和幸（上大槻）▽優良賞＝伊奈清（下大槻）高橋庸郎（尾尻）▽佳良賞＝今井新一（室町）村上茂（堀山下）

◇

第50回神奈川県施設野菜共進会（立毛の部）が6、7の両日、県内圃場を巡回して開かれた。審査の結果は次の通り。

◎トマトの部▽入選＝伊奈清（下大槻）田中和幸（上大槻）

◇

第50回神奈川県施設野菜共進会（野菜の部）が9日、県農業技術センターで開かれた。審査の結果は次の通り。

◎トマトの部▽入選＝田中和幸（上大槻）伊奈清（下大槻）

◎キュウリの部▽入選＝今井新一（室町）

JAグリーンは農家を応援します

ボードン袋・テープ類お得なキャンペーン

ＪＡグリーンはだのは5月15日（土）～23日（日）、ボードン袋・テープ類の割引キャンペーンを実施します。期間中は特別価格で販売しますので、お得なこの機会にぜひご利用ください。

お問い合わせはＪＡグリーンはだのまで。☎81―7719

営農技術 ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター　0463-22-9521（朝原・矢野・島田）

農業技術センター　普及指導部　0463-58-0333

- 果樹花き課　果樹（笹屋）　花き（青木）
- 作物加工課　作物（木村）　加工（中山）
- 野菜課（草野）

水稲

水稲育苗について

準備

充実の良い種子を選別するために、塩水選を行うとともに、種子伝染性病害やシンガレセンチュウの予防のため、必ず種子消毒を行います。消毒後、ハト胸状態に催芽させるために、水温の積算温度100度（15度の場合は7日間、20度の場合は5日間）を目安に、種子を水に浸します。育苗土は、苗立枯病などを防ぐため、必ず床土消毒を行いましょう。消毒済みの育苗培土を使用するときも、床土の消毒は必要です。

▼播種（はしゅ）

10アール当たりの播種量は乾もみで3キロ、育苗箱1箱当たりでは約150グラム（催芽もみで約190グラム）が目安です。厚まきすると、苗が蒸れたり徒長したりするので注意しましょう。かん水は、播種前の床土に適切に行い、水分不足にならないようにします。

▼出芽

積み重ね方式の場合は育苗箱6～10枚程度とし、多く重ねないようにしましょう。育苗箱内の温度は30度以上にならないように、温度の上がり過ぎに注意しましょう。

▼育苗

1センチ程度出芽したら直ちに育苗箱を広げ、昼間20～25度、夜間15～18度で管理します。低温になると苗が伸びなくなるので、寒冷紗（しゃ）やビニールトンネルで保温しながら管理します。育苗前半は、温度を急激に低下させないよう、午前中にかん水します。水を掛け過ぎると根の張りが悪くなるので、かん水は控えめにしましょう。

育苗後半の温度は昼間20度前後、夜間15度前後を目標に管理します。低温になるときは被覆資材で保温しましょう。田植えの1週間前ごろから被覆資材を外し、徐々に外気温に慣らします。30度以上の高温は「苗が焼ける」状態になったり、苗立枯病を助長したりするので、換気などを行い、高温にならないようにしましょう。

▼病害虫防除

縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカと、倒伏の原因にもなる紋枯病の発生を予防するため、育苗箱施薬を行いましょう。（木村）

文芸の窓

〈俳句〉（酒井　敏光　選）

新緑や庭を濃くして雨上がる　石原　松枝（渋　沢）

春愁や還暦は過去八十の坂　柴崎　和子（渋　沢）

手のひらにのせたき仏像うららけし　高橋　順子（大秦町）

頬杖の爪のマニュキア春愁ひ　柳川みち子（栄　町）

春愁や志野の茶碗の小さき疵　佐藤英美子（南矢名）

春愁や程よく離れ夫婦岩　森高　由子（渋　沢）

試着室出て春愁の顔を見せ　高島美和子（名古木）

木蓮やもと来た道へ帰る鳥　吉田　清美（渋　沢）

春愁や母の残せし洋書古る　菊池としえ（菩　提）

土筆煮る祖代々の末娘　志賀　明子（千　村）

記念樹に植えしミモザの花たわわ　芦川　松江（八　沢）

春愁やかんばの甘き樹の匂ひ　選者

〈短歌〉（久保寺　富男　選）

八重桜摘む人あらぬわが畑に
命の限り花咲き盛る　細田　富士（千　村）

評　年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず、唐の詩人劉希夷の詩である。食用の八重桜であろう、少子高齢化の上にコロナの影響で摘む人もなく、花だけが豊かに咲き盛っているのである。

よかったと母は言いたり逼塞の
施設を出でて花見に来たれば　八木　実（鶴巻北）

こんな小さな虫でも命あり
右往左往して何を求むや　今井　かめ（羽　根）

ばば掃除と笑顔の孫の今日は来て
会話弾むが何よりうれし　石田こずゑ（水神町）

接ぎ木して育て来し柿五十年
今日は太枝バッサリおとしぬ　伊東　久（渋　沢）

電気柵市道に張りて平然と
常識無視の大卒のひとは　峰　孝子（千　村）

残れるもやがて散る花ふんわりと
真昼のひかりに影持ちて桜　選者

農作業事故防ごう

5月1日から春の安全運動

JAはだのは5月1日（土）から6月30日（水）まで、農作業事故撲滅を目的に春期農作業安全運動を実施します。期間中は、本所と各支所・支店に農作業安全標語を記載した看板を設置し、来所者に注意を呼び掛けます。

市内では、農作業中の傷害事故が毎年起きています。昨年度は市内で、農業機械使用時の負傷や高所作業中の転倒など、17件の労災申請事故が発生しました。農業機械を使用する前には、必ず整備や仕業点検を実施し、こまめに休息を取るなど、事故防止に努めましょう。

灯油の小口配送

70リットル未満も可に

灯油の配送について、組合員の皆さまからの要望を受け、70リットル未満の小口配送の対応を始めました。

価格は、70リットル以上の通常配送より、1トル当たり10円割り増しになります。

ご注文やお問い合わせは経済課まで。☎81－7717

長寿者に記念品贈呈

いきいきライフ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

100歳以上

▽大根地区＝宇山きく（鶴巻南）田山イヨ（鶴巻南）

▽東地区＝鈴木惠治（寺山）

▽南地区＝加藤ヤエ子（鈴張町）

▽北地区＝三嶽美代子（羽根）久保寺アサ（戸川）久保寺はつ江（戸川）小泉春子（羽根）山口初江（横野）

▽西地区＝野田将次郎（渋沢上）久保寺リヨ（堀西）山村八千代（春日町）飯田卯女子（堀西）

▽上地区＝大澤武司（三廻部）諸星トク（菖蒲）林ヤエ（菖蒲）石井ヤス（菖蒲）

99歳（白寿）

▽本町地区＝横溝英二（元町）

▽上地区＝長山静江（三廻部）

88歳（米寿）

▽本町地区＝遠藤敏雄（曽屋）松下貞夫（曽屋）綾部和至（ひばりケ丘）

▽上地区＝府川イセ子（菖蒲）熊澤純子（柳川）佐野美三雄（三廻部）

77歳（喜寿）

▽東地区＝芳賀ヒロ子（東田原）

▽北地区＝倉賀野啓子（三屋）今井勲（羽根）相原数子（横野）

▽西地区＝小室恭子（渋沢）

▽上地区＝井上多美雄（三廻部）石橋道広（菖蒲）小宮安禮（八沢）

※自己申告ですので、該当の方は誕生月の前月末までに各支所・支店にご連絡ください。

フレッシュ新採用職員

よろしくお願いします

上段左から　関野勇志（大根支所）桐山七海（東支所）守屋寿紀（北支所）

下段左から　横山園夏（信用課）松谷遥菜（本町支所）筒井ひなの（南支所）伊藤有希菜（西支所）

秦野の農家ご飯

新ジャガとタケノコのドライカレー

東支部　堀井　由紀さん

■材料（４人分）■

合いびき肉200グラム、新ジャガイモ中１個、ゆでたタケノコ100グラム、パプリカ１個、ショウガ・ニンニク各１かけ、サラダ油大さじ２、カレー粉大さじ２、小麦粉大さじ２、塩・こしょう少々、Ａ（トマトジュース250cc、ケチャップ大さじ２、みそ大さじ２）

＜作り方＞

①新ジャガイモはよく洗い、皮付きのまま１センチ角に切る。ゆでたタケノコとパプリカも１センチ角に切る。

②ショウガ、ニンニクはみじん切りにする。

③鍋にサラダ油を入れ、②とカレー粉を加えて弱火で炒める。

④③に合いびき肉、新ジャガイモ、タケノコを順に加えてよく炒め、火が通ったら小麦粉を振り入れてよくなじませる。

⑤④にＡを入れ、煮立ったらふたをして弱火で10分煮る。

⑥パプリカを加えてさらに７～８分煮込み、塩・こしょうで味を調節したら完成。

＜ひとことアドバイス＞

菜の花とゆで卵のサラダを添えて、春の食卓にどうぞ。

税務相談日　５月10日（月）　午前９時30分～

法務相談日　５月20日（木）　午後１時30分～

場所　本町支所

予約制ですので、事前にお電話にてご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。

受け付け・ご予約は㈱協同コンサルトはだの　☎81－2329

職員人事

かっこ内は旧部署

◎4月1日付人事異動

◇管理部

総務課

課長＝北村和宏（企画課長）田中優子（南支所）

管理部付神奈川県信用農業協同組合連合会出向

羽吹悠（組織教育課）

◇企画部

企画課

課長＝村上智（総務課長）山口将史（総務課）

企画部付㈱協同コンサルトはだの出向

原智（東支所長）

◇営農販売部

部長＝澤岻直樹（営農課長）

営農販売課

課長＝内藤聖樹（店舗販売課長）牧石さくら（経済課）

◇経済部

部長＝向原和儀（北支所長）

経済課

松本智子（営農課）石原恵理子（南支所）髙橋拓也（西支所）

葬祭課

課長兼セレモニーホール長＝小島啓嗣（葬祭課セレモニーホール長）

◇金融共済部

信用課

貯金係長＝足立善広（信用課資金係長）資金係長＝岩田祐司（信用課）

融資課

審査係長＝大津貴之（融資課審査管理係長）

融資管理係長＝加藤英明（西支所次長）加藤翔平（東支所）

共済課

契約保全係長＝恩蔵則明（経済課）

◇大根支所

次長＝伊藤多恵子（西支所金融共済係長）金融共済係長＝奥瀬美樹（東支所業務主任）融資主任＝栗原明宏（大根支所）関野勇志（新採用）

◇鶴巻支店

支店長＝北村貴之（鶴巻支店次長）次長＝平之内昌彦（大根支所次長）

渉外主任＝山口雅弘（鶴巻支店）佐藤彩夏（本町支所）村山友紀（南支所）

◇本町支所

支所長＝橿原有美子（信用課貯金係長）業務主任＝芦川紗和子（本町支所）佐藤智俊（北支所）松谷遥菜（新採用）

◇東支所

支所長＝久保寺一志（鶴巻支店長）業務主任＝加藤絵美（上支所業務主任）須藤ゆり（北支所）生駒俊（営農部付はだの都市農業支援センター）川口元（西支所）桐山七海（新採用）

◇南支所

支所長＝益子英治（南支所次長）次長＝和田恵理子（南支所金融共済係長）金融共済係長＝麻生麻美（北支所業務主任）業務主任＝井上美紀（鶴巻支店金融共済係長）町田智昭（東支所）大島琳花（西支所）奥津有揮（企画課）筒井ひなの（新採用）

◇北支所

支所長＝大津和也（本町支所長）業務主任＝大橋陽子（本町支所業務主任）田中ひとみ（大根支所）相原基紀（南支所）守屋寿紀（新採用）

◇西支所

次長＝大森和子（大根支所金融共済係長）金融共済係長＝益子真紀子（共済課普及保全係長）柿坂佳恵（北支所）磯谷虹介（大根支所）伊藤有希菜（新採用）

◇上支所

業務主任＝大戸香奈（南支所）

◎特別嘱託職員（定年再雇用）

◇総合リスク管理課

小澤範明

◇組織教育課

和田靖夫（融資課）

◇営農販売部付はだの都市農業支援センター

浅見武男（東支所）

◇生産資材課

相原清（総合リスク管理課）

◇東支所

小池裕（経済課）

◇西支所

原敬（生産資材課）

◎3月31日付退職

山岸一章（営農部長）小澤範明（経済部長）飯沼均（融資課）神山隆治（南支所長）渕知美（企画管理部付㈱協同コンサルトはだの出向）佐藤拓哉（組織教育課）栗原豊（経済課旅行センター長）兵藤みわ（鶴巻支店）横溝暁子（東支所）黒子悠里（東支所）髙橋泉（南支所業務主任）渋谷幸夫（営農課）北村勉（西支所）

魅力ある女性部活動進めよう

コロナ対策で書面決議中心の通常総会

絵手紙や手芸などの作品が並んだ

女性部は3月25日、本所で第53回女性部総会を開いた。新型コロナウイルス感染症の防止対策のため来場人数を制限し、部員53人が出席。多くの部員に議決権行使書の提出を呼び掛け、書面決議中心の総会を開催した。

総会では、第1号議案「2020年度活動報告並びに収支決算書の承認について」、第2号議案「2021年度活動計画（案）並びに収支予算書（案）の承認について」、第3号議案「女性部特別会計の運用について」、第4号議案「ＪＡはだの女性部規約の一部改正について」、第5号議案「役員の承認について」を審議。全議案を全会一致で可決した。

全5議案を可決した女性部総会

会場に手作り作品展示

会場には8組の目的別趣味グループが制作した手芸や絵手紙、折り紙などの作品を展示した。四季折々をテーマにした作品が数多く並び、出席した部員から注目を浴びた。

部長に櫛田さんを選任

役員21人で新体制スタート

今年は役員改選の年であり、女性部総会で2021年度、22年度の2年間の任期を務める新役員21人を選任した。

女性部長に東支部の櫛田真弓さん、副部長に大根支部の石井理代さんと、北支部の吉田美津江さんをそれぞれ選出した。

各支部の新役員

支部	支部長	副支部長	副支部長
大根	石井　理代	青木　紀久代	伊藤　久恵
本町	川口　君子	白井　悦子	小島　洋子
東	櫛田　真弓	込山　ゆきゑ	田辺　節子
南	高橋　小夜子	松下　眞理子	草山　弥生
北	吉田　美津江	高梨　知子	内野　常子
西	神田　道代	山口　香都子	大澤　みどり
上	竹内　京子	増田　育英	和田　雅子

新たな支部長と副支部長

21年度もポイントカード

活動参加でオリジナルグッズ

2021年度のポイントカード

女性部は昨年6月に導入したポイントカード制度を、今年度も実施します。参加した活動の内容に応じて1～3個のスタンプを押します。

2022年2月末時点で、たまったポイント数に合わせて、ＪＡオリジナルキャラクターのグッズをプレゼント。積極的に活動に参加して、皆さんで部を盛り上げましょう。

お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661

ポイント付与一覧表

1ポイント	▶女性部新規加入▶組合員講座新規受講申し込み▶各種活動への参加（支部活動・支部役員会・女性部総会・球技大会・本所開催の各種料理講習会・女性部サポーター活動・大豆プロジェクト・夏まつり・農業まつり・たばこ祭千人パレード・フレッシュミセスのつどい・女性部企画旅行・女性部運動会・女性部座談会・文化交流会・乳がん子宮がん検診・ＪＡはだの創立記念式典・健康福祉大会・ＪＡはがの女性会との交流会）
2ポイント	▶ＪＡはだの組合員新規加入▶女性部サポーター登録▶県家の光大会発表
3ポイント	▶女性部加入者紹介▶フレミズ代表者登録▶家の光年間購読▶パルシステム新規加入▶ＪＡはだの家の光大会発表

いきいき女性部活動

大根支部
南矢名上部5班
安部　美恵子（あべ　みえこ）さん

私たちの班は、4人で活動しています。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな行事が中止になりましたが、大根支部の新しい支部活動「スマートフォン教室」に班員みんなで参加しました。ＬＩＮＥ（ライン）の使い方を詳しく教わりました。

班員で友だち登録をし合い「グループ作成」ができるようになりました。今までは、電話や直接会って班員と交流していましたが、スマートフォンで、気軽にメッセージを送り合って連絡が取れるようになりました。

今後、新しい生活様式に合わせて、女性部活動が再開できることを期待しています。

女性部に加入しませんか

女性部は、食や農、く らしに関心のある女性が集まり、健康で明るい豊かな生活の実現を目的に、さまざまな活動を行っています。現在、一緒に活動を盛り上げていく部員を募集中。市内在住であれば、女性ならどなたでも加入できます。年会費は500円です。この機会に女性部に加入してみませんか。

お申し込み・お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661。

活動内容の具体例は次の通りです。

◇食と農の活動
地産地消を進め、秦野の食文化を大切にする活動＝ふるさと料理教室・クッキングフェスタ・大豆栽培

◇生活健康管理活動
健康で生きがいのある生活を送るための活動＝運動会・球技大会・乳がん・子宮がん検診

◇高齢者福祉活動
心のゆとりと、安心して生活できる環境づくりを目指す活動＝お茶飲み交流会・健康福祉大会

◇ふれあい文化活動
部員相互の親睦や、地域・次世代との交流を深める活動＝グルメ旅行・一泊旅行・グラウンドゴルフ大会

◇目的別趣味グループ
同じ趣味を持った仲間同士の活動＝歩こう会・舞踊・ダンス・コーラス・絵手紙など

5月の女性部行事予定表

10日（月）	13：30～「ままメートクラブ」打ち合わせ
12日（水）	13：30～本部役員会
14日（金）	13：30～本町支部「アレンジフラワー教室」
19日（水）	9：30～料理サポーター運営委員会
〃	13：00～北支部「ゴキブリ団子作り」
20日（木）	13：30～東支部「グラウンドゴルフ大会」

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定が変更になる場合があります。お問い合わせは生活福祉課まで。☎72―7661

告知板

ＧＷ中のＡＴＭ稼働

４月29日（木）、５月１日（土）～５月５日（水）のゴールデンウイーク期間中、ＪＡはだのＡＴＭは通常通り稼働します。※上支所を除く。

お問い合わせは各支所・支店または信用課まで。☎81－7716

ＧＷ中の購買カード紛失対応

４月29日（木）、５月１日（土）～５月５日（水）のゴールデンウイーク期間中に組合員購買カードを紛失した場合は、ＪＡグリーンはだの☎81－7719、東給油所☎84－7001、西給油所☎87－7261のいずれかにご連絡ください。

農業者に交付金を支給

農業者の経営所得安定対策の一環で、交付金を支給します。

◎対象　①水田で野菜などを販売目的で生産している農業者②小麦・大豆・ソバを生産している認定農業者　※米の交付金は2018年産から廃止されたため申請不要。

◎申し込み日時　５月11日（火）、12日（水）両日とも午前９時～正午、午後１時～同４時

◎場所　秦野市役所西庁舎１階　会議室

お問い合わせは秦野市農業振興課☎82－9626まで。制度についての詳細は、関東農政局神奈川県拠点☎045－211－7176まで。

一時支援金の申請に対応

今年１月から３月まで発令された緊急事態宣言により、影響を受けた個人事業主に対して、政府が「緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金」を給付します。農業者も給付の対象となるため、ＪＡはだのは組合員の申請に関する相談に対応しています。

◎給付金額　最大30万円

◎申請期間　５月31日（月）まで

◎申請方法　必要書類をそろえた上でウェブ申請

◎給付要件　①緊急事態宣言発令区域内の飲食店などと、複数回にわたって直接取引している。または、緊急事態宣言発令区域内のＪＡ・卸に複数回にわたって出荷している②緊急事態宣言に伴う外出自粛または飲食店の時短営業などの影響により、２０２１年１～３月の事業収入が、20年または19年と比較して50％以上減少している。

※豊作による価格下落・不作による収穫量減少だけが原因の事業収入減少など、緊急事態宣言の影響を受けた事業収入の減少とは認められない場合は、給付対象外です。

詳しい内容やご相談は営農販売課☎81－7711または組織教育課☎81－7714まで。

総代会資料を配付
今年はＨＰにも掲載

４月30日（金）から５月上旬にかけて、正組合員に総代会資料を配布します。

今年からは、資料のＰＤＦデータをホームページに掲載しますので、どなたでもご覧になれます。

総代会資料の受け取りを希望する准組合員には、直接お渡ししますので、４月30日（金）以降に各支所・支店または総務課までお越しください。

総代会については、新型コロナウイルス感染症の状況などを考慮した上で、開催方法を変更する場合があります。変更する場合は、ホームページでお知らせする他、総代の皆さまには個別に通知しますので、ご確認ください。

お問い合わせは総務課まで。☎81－7711

茶生葉の加工について

茶生葉の加工日は５月８日（土）、15日（土）の２日間を予定しています。天候によっては加工日が変更になることがありますので、搬入日の前日に、営農販売課まで再度ご確認ください。

◎搬入場所・時間

▽大根、本町、東、南地区＝本所（ＪＡグリーンはだの前）・午後２時～同３時

▽北、西、上地区＝上荒茶工場・午後２時～同３時

◎加工料金　生葉１キロ当たり302円（税込み）

◎加工料金の徴収　加工作業終了後10日以内に精算

◎注意事項　当日摘採の生葉を搬入してください。異物混入や蒸れにご注意ください。

お問い合わせは営農販売課まで。☎81－7718

加工相談会を開催

農産加工品をテーマにした相談会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

◎日時　５月21日（金）午前10時～午後４時

◎場所　本所農業団地センター２階　研修室

◎内容　午前は、食品衛生法の改正について説明します。午後は、個別の相談をお受けします。

お申し込みは生活福祉課まで。☎72－7661

ターゲットバードゴルフ大会が中止

ターゲットバードゴルフ大会の開催について、実行委員会で協議した結果、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度も中止することとなりました。皆さまのご理解をお願いします。

お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661

上地区農園ハイクが中止

上地区農園ハイク実行委員会が開く「上地区農園ハイク」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度の開催を中止します。皆さまのご理解をお願いします。

お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

じばさんずNEWS

新型コロナウイルス感染症対策のため、入店の際はマスクの着用と手指の消毒をお願いします。

【５月のイベント】

☆「旬の果物・野菜フェア」１日（土）、２日（日）、15日（土）16日（日）
旬の果物や野菜にスポットを当て、店舗外の特設コーナーで販売します。

☆「こどもの日フェア」３日（月）～５日（水）
柏餅をはじめとした和菓子など、こどもの日にちなんだ商品を販売します。

☆「母の日フェア」８日（土）、９日（日）
花束やフラワーアレンジメントを豊富に用意します。秦野産のカーネーションを贈って、日頃の感謝の気持ちを伝えましょう。

☆「豚肉加工商品の日」14日（金）
㈱フリーデンが国産豚を使用したお得な商品を販売します。

☆「おすすめ商品の特売」18日（火）、25日（火）
産地間提携を結ぶＪＡの商品など、じばさんずおすすめの品を特別価格で販売します。

☆「らっきょう酢フェア」22日（土）、23日（日）
いろいろな料理に大活躍の「らっきょう酢」を紹介します。

☆「新茶フェア」26日（水）
㈱神奈川県農協茶業センターが足柄茶の新茶を対面販売します。

☆「お茶フェア」29日（土）、30日（日）
生産者が秦野産のお茶を対面販売します。お茶に関する質問にもお答えしますので、お気軽にどうぞ。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日
店頭価格から10％引き。「みくるべたまご」は除きます。

☆「米の日」毎週水曜日
店頭価格から10％引き。

☆「肉の日」毎週金曜日と29日（土）
店頭価格から５％引き。

◎５月11日（火）は定休日です。

※感染症の影響により、試食イベントは休止しています。他のイベントも変更になることがありますので、ご了承ください。

今月の生産者

尾尻の　髙橋（たかはし）　庸郎（のぶお）さん

出荷品目　施設栽培のトマトやキュウリの他、ナスやピーマンなど

大、小さまざまなサイズのトマトをはじめ、赤やオレンジ、黄、緑などカラフルなミニトマトの他、キュウリも出荷しています。栽培しやすい品種を取り入れて安定的に出荷するよう心掛けています。カラフルなトマトは、食卓を彩るのにぴったりですので、ぜひ手に取ってみてください。

JAマイカーローン
お客さまのカーライフを応援します
お使いみち　自動車・バイク購入費用、カー用品購入費用、他社自動車ローンの借換、運転免許取得費用、車検費用などカーライフに関するもの。
インターネットでかんたん事前審査申し込み！　QRコード読み取り可能な端末はこちらから
PC・スマートフォンでご利用可能！　JAはだの　検索
詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

休日年金相談会
これから年金を受け取る皆さまの複雑な受給手続きのお手伝いをさせていただきます。
社会保険労務士がご相談にお応えします。
ご来場の方に粗品を進呈
日付・場所　5月16日(日)　本所農業団地センター
※時間は午前9時～午後4時まで。どなたでもご相談いただけます。
※感染症などの状況により、中止になる可能性があります。開催状況はJAはだのホームページをご確認ください。
できるだけ事前予約をお願いします　信用課　TEL.81-7716　当日は0120-954-092